

## 拠点病院事業及び情報センター事業の Performance Indicator 作成

分担研究者：大座紀子 国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター客員研究員

研究要旨：平成 28 年度から肝炎患者等支援対策事業における実施スキームが変更され、国から都道府県に対して 1/2 の割合で助成され、残り 1/2 は肝炎情報センターからの再委託という形に改正された。さらに、平成 28 年度に肝炎対策基本指針が改正され、都道府県は肝炎対策に係る計画、目標の設定を図ることを重要事項として付されたところである。本研究は、拠点病院及び肝炎情報センターの事業実績を俯瞰して振り返り、それぞれの計画、目標の設定に資する指標作成を目的とした。肝炎患者等支援対策事業実施要綱に記載されている各事業内容を全て抽出し、肝疾患診療連携拠点病院現状調査結果をふまえ、全 3 回の班会議及び検討委員会を通じて、最終的に 21 項目の指標（案）を作成した。今後、実際の運用を通じて、さらなるブラッシュアップを検討していく必要がある。

### A. 研究目的

国は肝炎総合対策を**1)肝炎治療の促進、2)肝炎ウイルス検査と重症化予防の推進、3)地域における肝疾患診療連携体制の強化、4)国民に対する正しい知識の普及、5)研究の推進の5本の柱**で推進してきた。一方、地域における肝炎対策の拠点として、肝疾患診療連携拠点病院（以下、拠点病院）が各都道府県に対して少なくとも**1か所**は設置されているところであるが、その情報共有支援を行うことは肝炎情報センターのミッションの一つである。平成**28**年度から肝炎患者等支援対策事業における実施スキームが変更され、国から都道府県に対して**1/2**の割合で助成され、残り**1/2**は肝炎情報センターからの再委託という形に改正された。さらに、平成**28**年度に肝炎対策基本指針が改正され、都道府県は肝炎対策に係る計画、目標の設定を図ることを重要事項として付されたところである。これまで、拠点病院及び肝炎情報センターの事業実績を俯瞰して振り返り、それぞ

れの計画、目標の設定に資する指標が存在しなかったことから、本分担研究ではその指標作成に資する研究を行うことにした。

### B. 研究方法

(1) 拠点病院事業指標について  
まず、肝炎患者等支援対策事業実施要綱に記載されている各事業内容を全て抽出した。これらを「指標：改善のための目印として利用される数値表現」に落とし込むために、「分子」、「分母」の参照値を設定することとした。参照値は、従前肝炎情報センターが全国の拠点病院に対して実施していた肝疾患診療連携拠点病院現状調査結果（以下、拠点病院現状調査）をふまえ設定した。

(2) 肝炎情報センター事業について  
平成**29**年**4**月**27**日に実施した第 1 回班会議での検討により、肝炎対策推進室で別途評価指標作成なされることとなった。

本研究は、患者個人の臨床情報を個別に扱うものではないため倫理上の問題は無い。なお、本研究は国立国際医療研究センターの倫理審査委員会の承認を得ている。

### C. 研究結果

第1回班会議において、指標の方向性及び内容を検討し、29項目の指標（案）を作成した。第2回班会議において、各指標（案）を構成する「分子」、「分母」及び新規に追加すべき指標について検討した。その際、類似のものとして病院機能評価事業を参照したが、膨大な調査内容（全99ページに及ぶ自己調査票作成）と外部組織による訪問・面接評価をそれに倣って実施することは、拠点病院の負担が大きいと考え、既存の拠点病院現状調査の枠内で指標を設定することとした。拠点病院現状調査は平成21年度から毎年度肝炎情報センターから全国の拠点病院に対して実施されていたものであるが、平成27年度から肝炎患者等支援対策事業の内容に沿って調査項目が一部改訂されていたことから、活動内容の振り返り及び再計画にあたり、要綱に記載の事業内容との整合性がとれ、過去の活動内容との比較も容易であると考えられた。平成28年度調査の時点で、拠点病院現状調査は7つの大項目、最大6つの中項目、さらに最大6つの小項目から構成されており、計100項目の調査内容から成る。拠点病院現状調査結果をふまえ、56項目の指標（案）を作成した。また、都道府県が実施主体である肝炎対策協議会等事業（肝炎患者等支援対策、肝炎患者支援手帳等作成、専門医療機関相談事業、地域肝炎医療コーディネーター養成、肝炎対策協議会等開催、肝炎診療従事者研修、シンポジウム開催、肝炎対策リーフレット

等作成、普及啓発事業）については、都道府県からの要請を受けて実質拠点病院が実施しているところもあったが、別途自治体事業のPerformance Indicatorで指標作成するものとし、本指標（案）の中では取り扱わないことと整理した。その後、外部識者を交えて実施した肝炎政策事業評価指標検討委員会において、外部識者と班員とで各指標を5段階で点数付けし、「分子」、「分母」について重み付けを行い検討した。第3回班会議においても同様に検討し、最終的に21項目の指標（案）とした（表1）。

表1. 拠点病院事業PI(Performance Indicator)案

肝炎診療連携推進事業	指標番号 (案)	項目	分子	分母	備考
事業系					
基本					
絶対	拠点-1	肝炎情報センターHP開設	有り=1, なし=0	定数=1	
絶対	拠点-2	肝炎情報センターの設置	有り=1, なし=0	定数=1	
絶対	拠点-3	相談件数 (総数)	相談件数	定数=1	
絶対	拠点-4	相談支援に係る自治体との連携	有り=1, なし=0	定数=1	
研修系					
標準	拠点-5	肝臓病教室の実施回数	実施回数	定数=1	肝炎支援と肝臓病教室同時開催の場合は評価を1/2にする
標準	拠点-6	家族支援講座の実施回数	実施回数	定数=1	肝炎支援と肝臓病教室同時開催の場合は評価を1/2にする 研究用調査の指標
事業系					
参考	拠点-7	肝炎支援事業実施	有り=1, なし=0	定数=1	研究用調査の指標
絶対	拠点-8	連絡協議会実施回数	実施回数	定数=1	
研修系					
絶対	拠点-9	肝炎専門医療従事者研修会実施	実施回数	定数=1	
絶対	拠点-10	肝炎専門医療従事者研修会の内容評価	参加者数	実施回数	
標準	拠点-11	肝炎専門医療従事者研修会開催時の自治体等との連携	有り=1, なし=0	定数=1	連携：自治体との共催等
研修系					
絶対	拠点-12	一般医療従事者研修会実施	実施回数	定数=1	
絶対	拠点-13	一般医療従事者研修会の内容評価	参加者数	実施回数	研究用調査の指標
標準	拠点-14	一般医療従事者研修会開催時の自治体等との連携	有り=1, なし=0	定数=1	連携：自治体との共催等
研修系					
絶対	拠点-15	市民公開講座実施	実施回数	定数=1	
絶対	拠点-16	市民公開講座の内容評価	参加人数	開催回人口	
その他					
参考	拠点-17	地域診療連携バス運用	地域診療連携バス発行数	定数=1	バスの運用対象は肝炎患者の疾患を問わない
標準	拠点-18	肝炎情報C実施の拠点病院連絡協議会参加	参加回数	年間実施回数	
標準	拠点-19	肝炎情報C実施の責任者出席回数	参加回数	年間実施回数	
標準	拠点-20	肝炎情報C実施の専任講師・相談員研修会参加	参加回数	年間実施回数	
絶対	拠点-21	複数の拠点病院がある場合の連携有無	有り=1, なし=0	定数=1	「連携」とは協議会、市民公開講座実施の開催等

### D. 考察

平成21年度から設置が推進されてきた肝炎診療連携拠点病院の事業に関して、指標（案）を作成した。過去の拠点病院現状調査との整合性、多岐に渡る事業内容と複雑なスキームの中での指標整理が課題となった。

### E. 結論

肝疾患診療連携拠点病院事業の指標（案）を作成した。今後、毎年実施されている拠点病院現状調査を通じて各拠点病院に対してアンケート方式で調査し、指標内容のさらなるブラッシュアップを検討していく必要がある。

F. 健康危険情報  
該当なし

G. 研究発表  
1. 論文発表  
なし  
2. 学会発表  
なし